金松堂文庫
へ13
3689
23

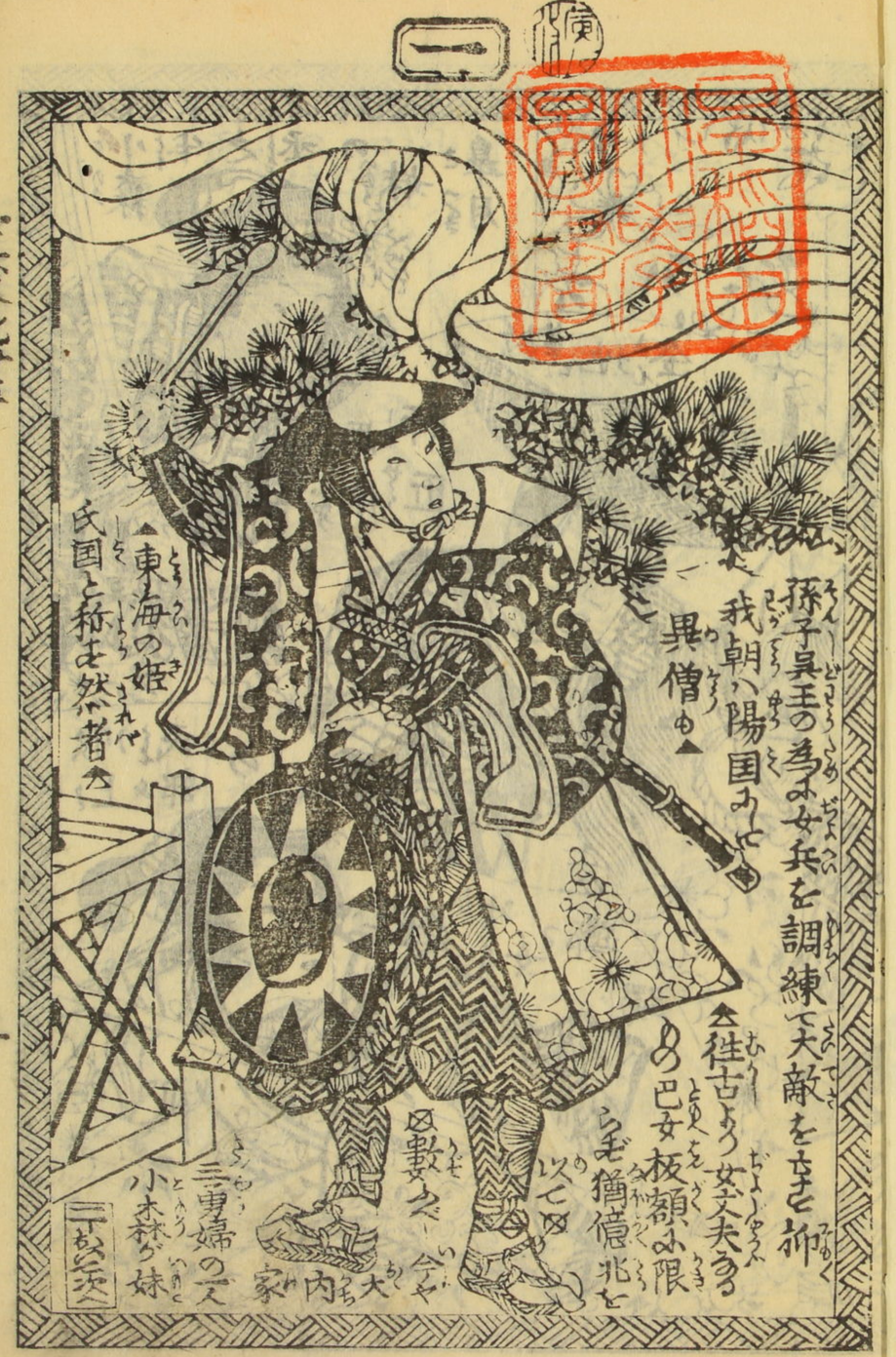
門へ13
號3689
巻23

金華七變化 第弐拾三輯 上之巻

鶴亭秀賀作
楳蝶樓國重画

丁卯初春狩刻

金松亭春梓



小森半之丞の妹
皐月
馬術の師匠
鞍地金三郎
川上民部の
鄭躅女
次女

弓術の師範
鳶股矢五郎
山口玄蕃の娘
霧島
鎗術の師家
管川房之丞
玉坂来太郎の一女
黒崎

前ぶれ 皐月が

江湖の婦女子を武道

の教へ導んと

丙寅皐月日稿

鶴亭秀賀記

怪力の一奇

武邊の噂将

兒き些少

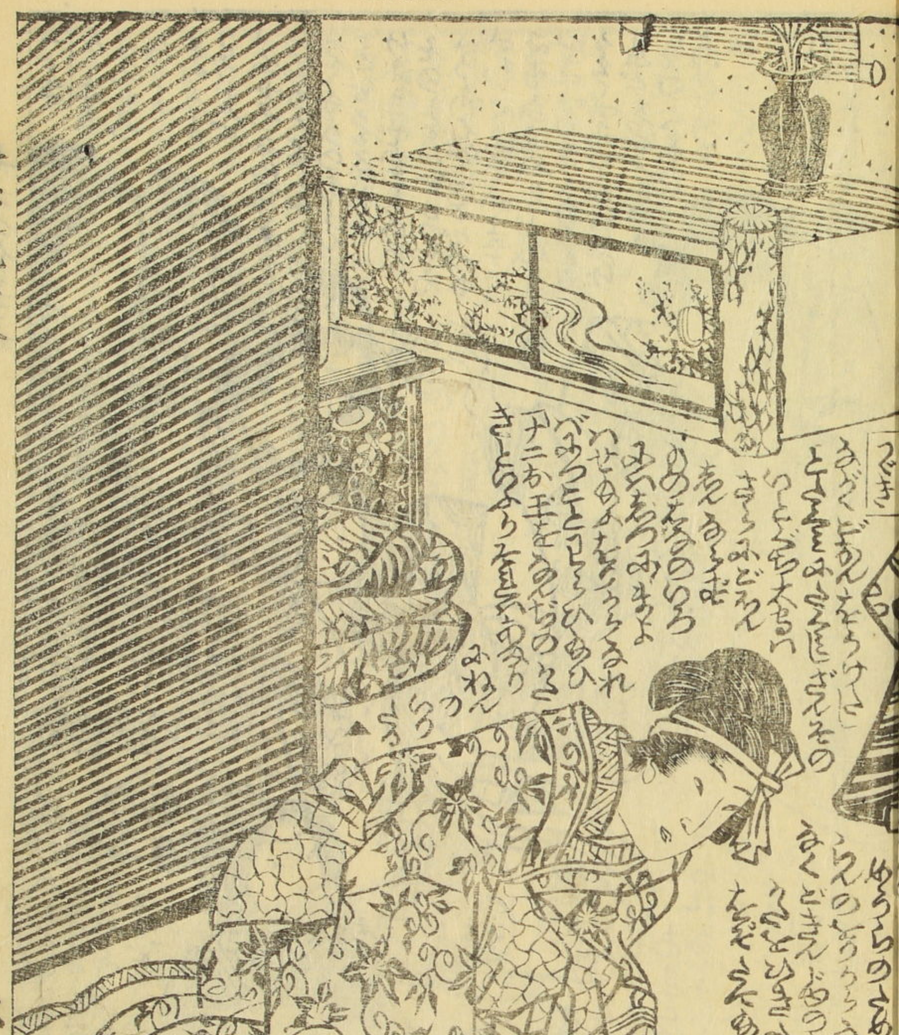
浪

正

大内

大内

あとのうみのみやのしょうそうふえまさざきさろううえもんそのころのわかふようにいうみやのしょうとふぎのろうさぶらいつまあまとびろうくらさせんやとふうのくらぼきさきのくおものひきみるとろくんのろうとうもんをまげのうえがをものさるみかとくとうぞくへてさのやくうえいんのやらうろうふもおいはやちくそふうろうさそのとあんてろうちふのーものときおかくべとうりぞおまーくものちゃーまとろくぶいそのごまおちゃんされがらうろうものとうんするうものろうぶしろうのろうぞぞんぬもるろいねとのろうとさとしあまようくおやみやくりゃとうう



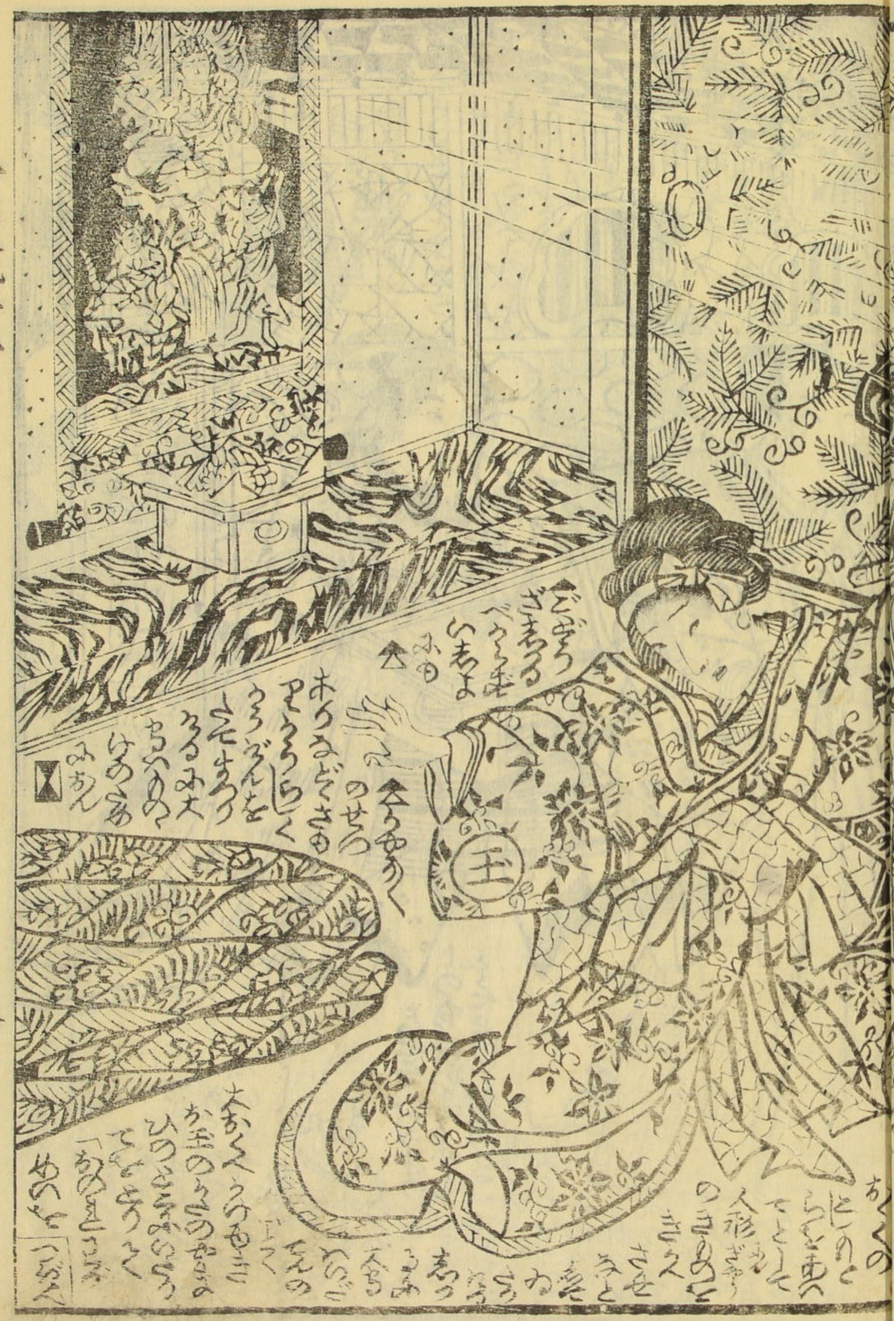
つぎまみぐどんそうけさとまみさとにざそのいとぐもおものさるふどろんおもものろのみちつみきよいせものみをろうるべみつこととりてこひのさおにおまをうのだのうきとりふりをとかのろみねんろうさ

ゆうらのろうみあんとろんきょうろんのろうろうまにべんのごーやまもなくどさんおのうのとあまされかろうのうとひきんまとろうろうぬとのおとまのろうくとものまろうろうおさのつようしものしーうまさとろのくとのしものろうまのくとさびろうろうろうろうのかろうのつぎ

つゞき

大

王



新吉原仲之町大通り

つき
ちとうかがいまする
ちとうかがいまする
ちとうかがいまする

大
湯
半

秀賀作 國貞画

金華變化

水鏡山鳥奇談 四編 秀賀作 五編 國貞画

美濃路名所 偃傴師 三編 秀賀作 四編 國貞画

花の御所九重日記 初編 秀賀作 追々出板 國貞画

文 地本雙紙問屋 金松堂 横山町三丁目 辻岡屋文助梓

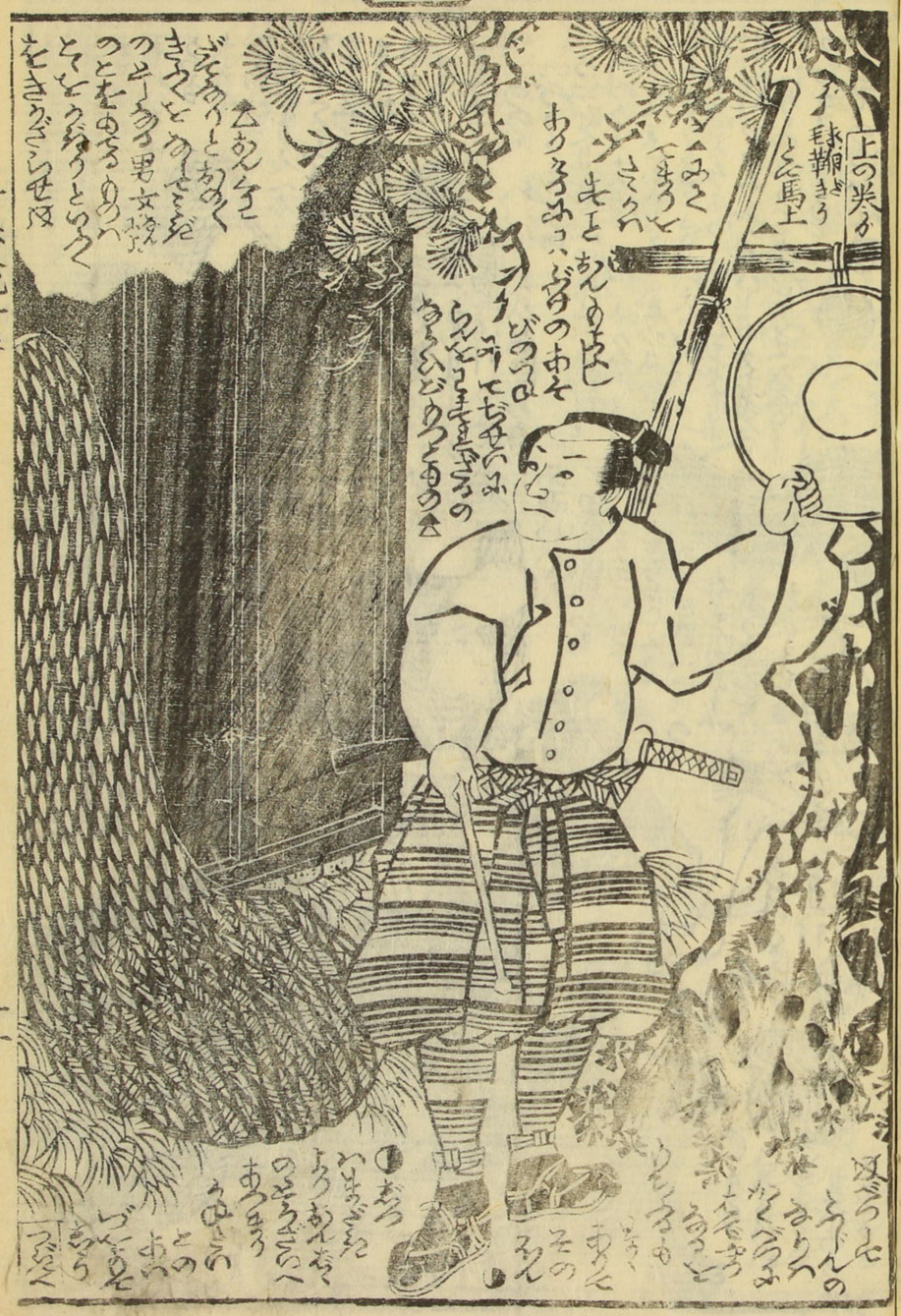
第弐拾（だいにじゅう）

三（さん）立（たち）

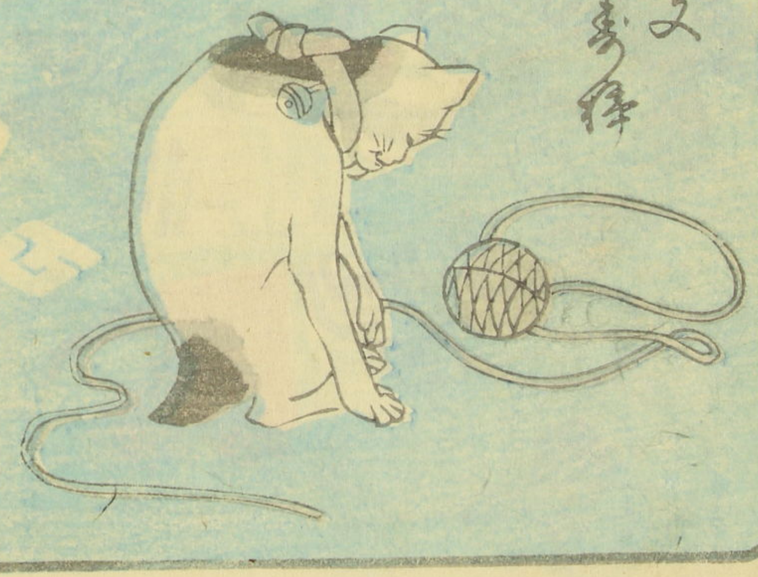
鶴亭
秀賀作
楳蝶楼
国貞画

卯春発兌

下



金幸 七変化 第廿三将 下の巻



つぎは　おろまろを　大将として　あまたの　ともぐ
さてうれしや　ろろみ
あれがまろ
うも
あるそ
紅白だん
ろろまろべん
ろろうさぎ
ろろまろ
ひろ
さとしく
さらさら
四まのぐろ
かのぐろ
ろろ
おのぐろ
ろろ
ろろ
ろ

大
源

大

▲れうひをさうみきいをぜかくのとぐみをうけて

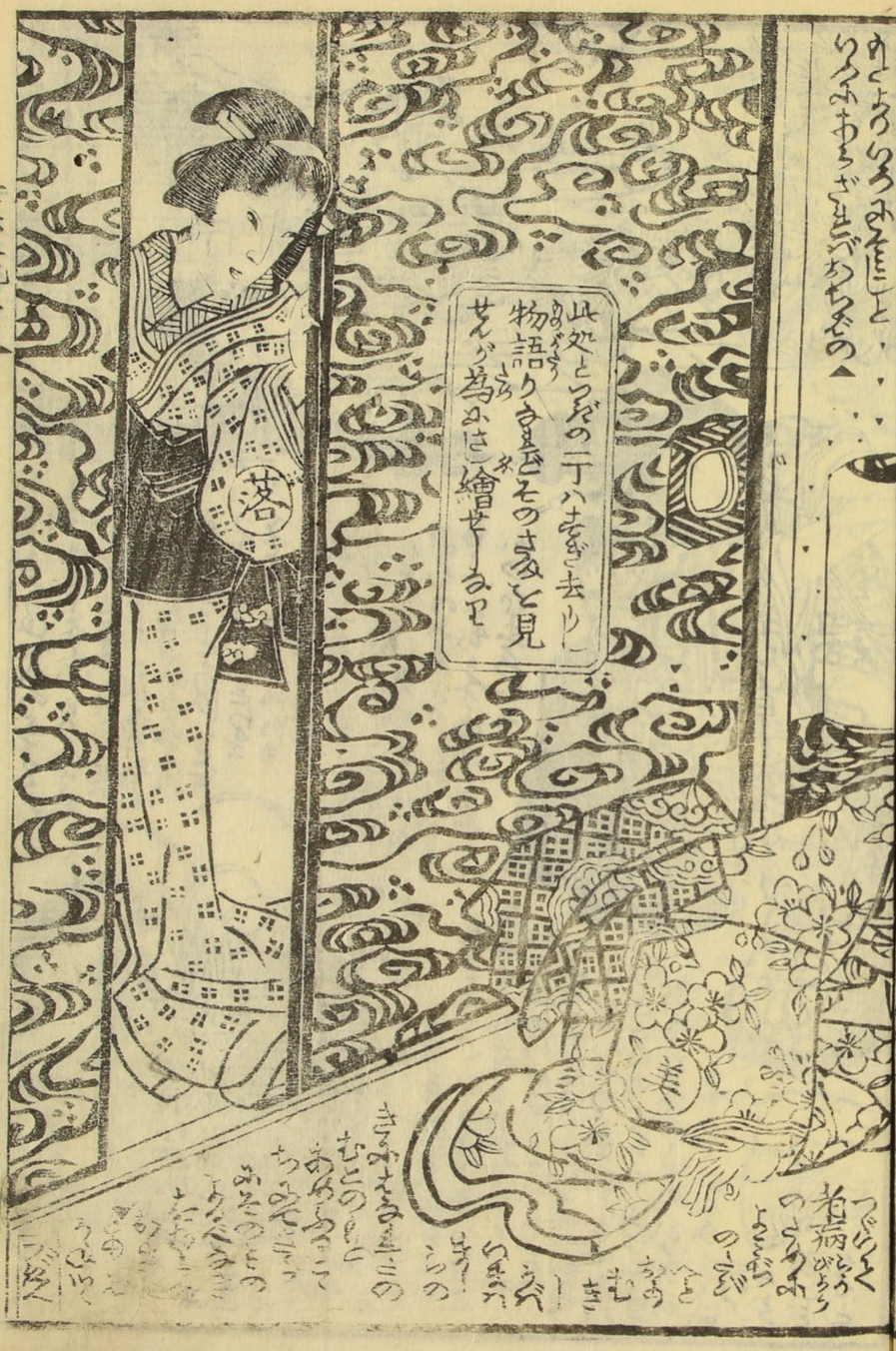
▲鉢こゝろ山口のうさ

とも山いろう多田中村ゟ仲太の仲太と

いうおもてへとゝをきうそのどうせうでうりをもはとうかきこうがきうぬ人さへうりきさうあがうよのさえみもとのとねをえまるのぞうつまかのおさうど

七や十三文とう買ふるときうさうのこゝろかとときのけみそうとよとゝ」

み仲太ゟよもの



此処とうぞの一丁ハよぎ去りし物語りうまどそのさまと見せんが為めは繪せーみや

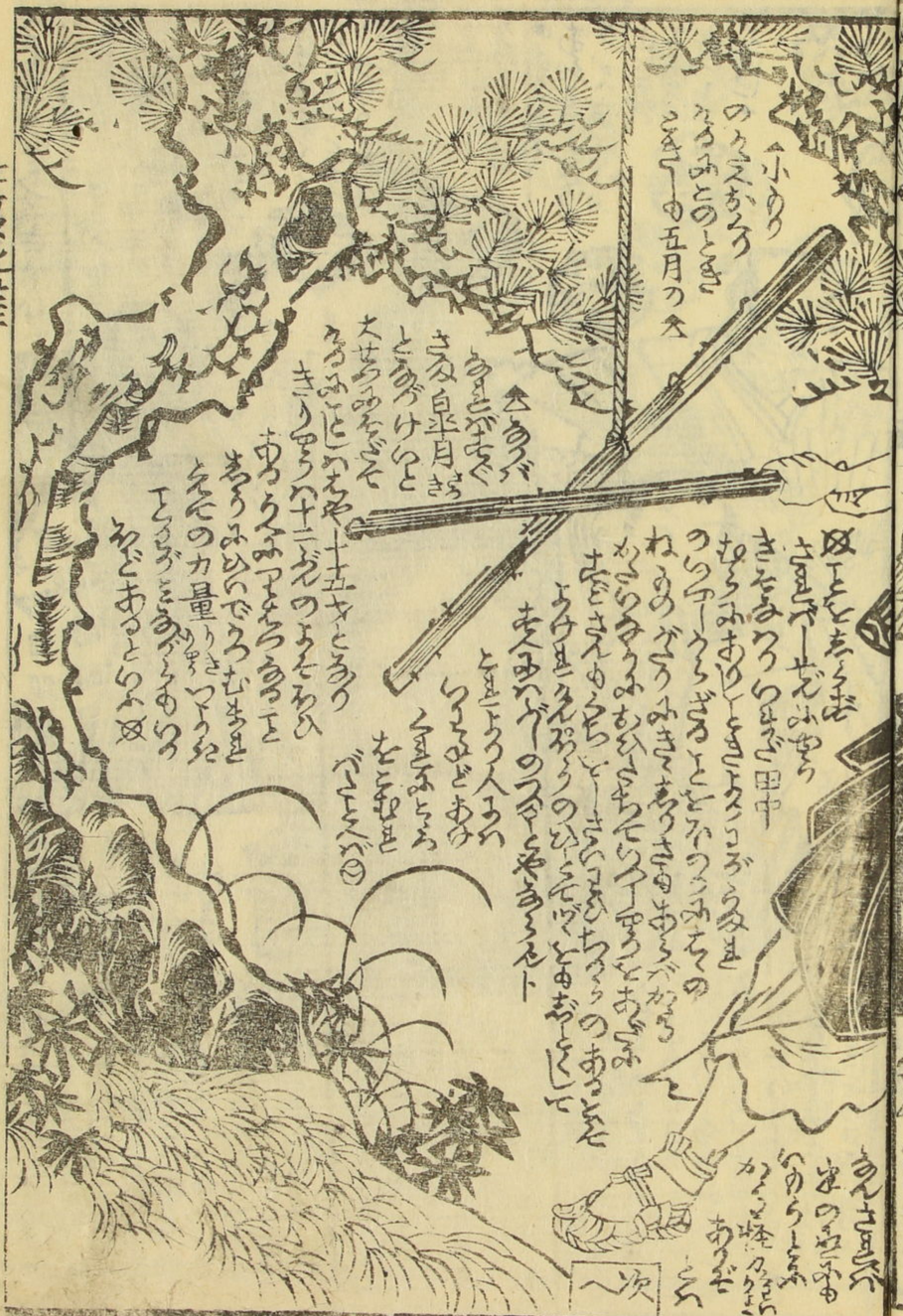
りとうろうみえとりうぶみちぞの▲

つぎにく着病がうのうろうふのようまがのこゝろ

きおさまる三のむとのりとあのふうこてちうのそこうみそのとのようにうさうのとうさうのとうさうのと

つぎは うめぼしの こうの ふくろを
もって さるが ふねの へさきに
のって いる ところ
【うめぼしの こうの ふくろを さるが ふねの へさきに】

一寄 ろの ふくろの こうの ふくろを さるが ふねの へさきに

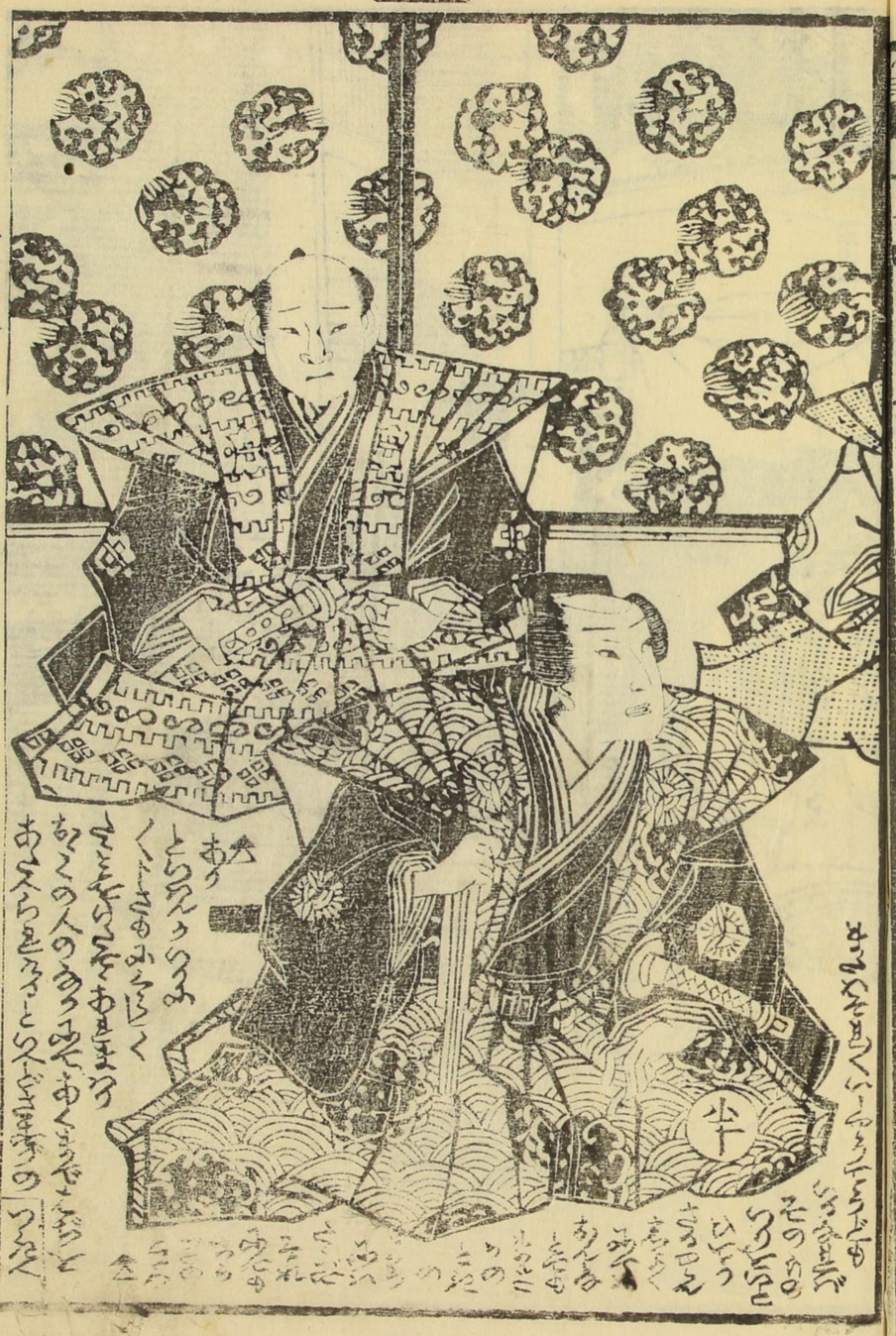


小ろく
のうえうろ
うみとのとき
ときーの五月の 文

うまにぜちぐ
さる皐月き
とのづけと
大せうみそざ
うみとにかも十五七とも
きりうか十二ゐのようそ
ゐうろうみつとろうそ
きうりみのでろうな
そそのカ量りきょう
とうろうとものづろう
そどあるとらん 文

双王とも
さるぞー
きをみろ
ろうみあり
つつつーろう
ねのめざう
めさうみえ
ようみ
夫みの
とみ

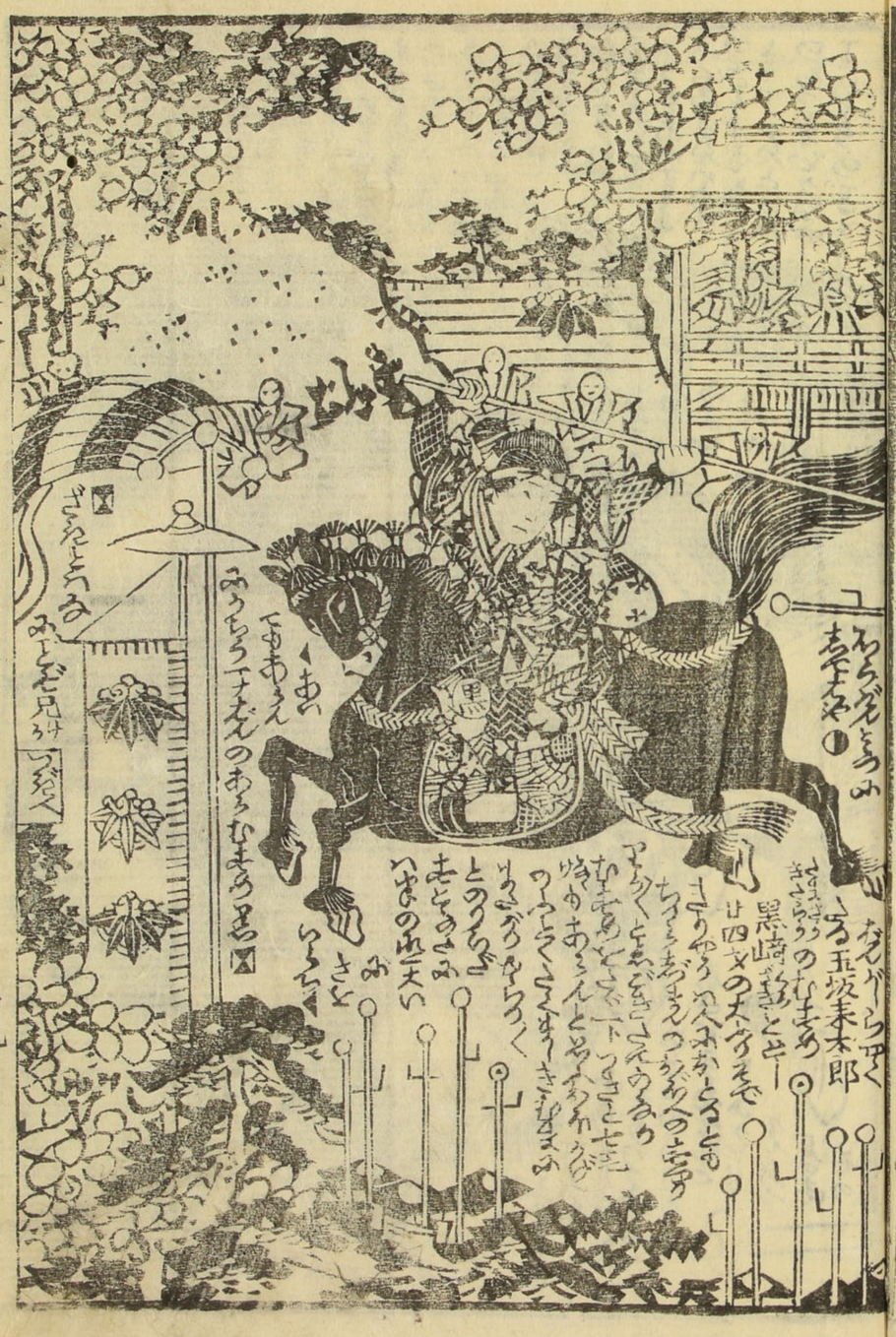
次へ

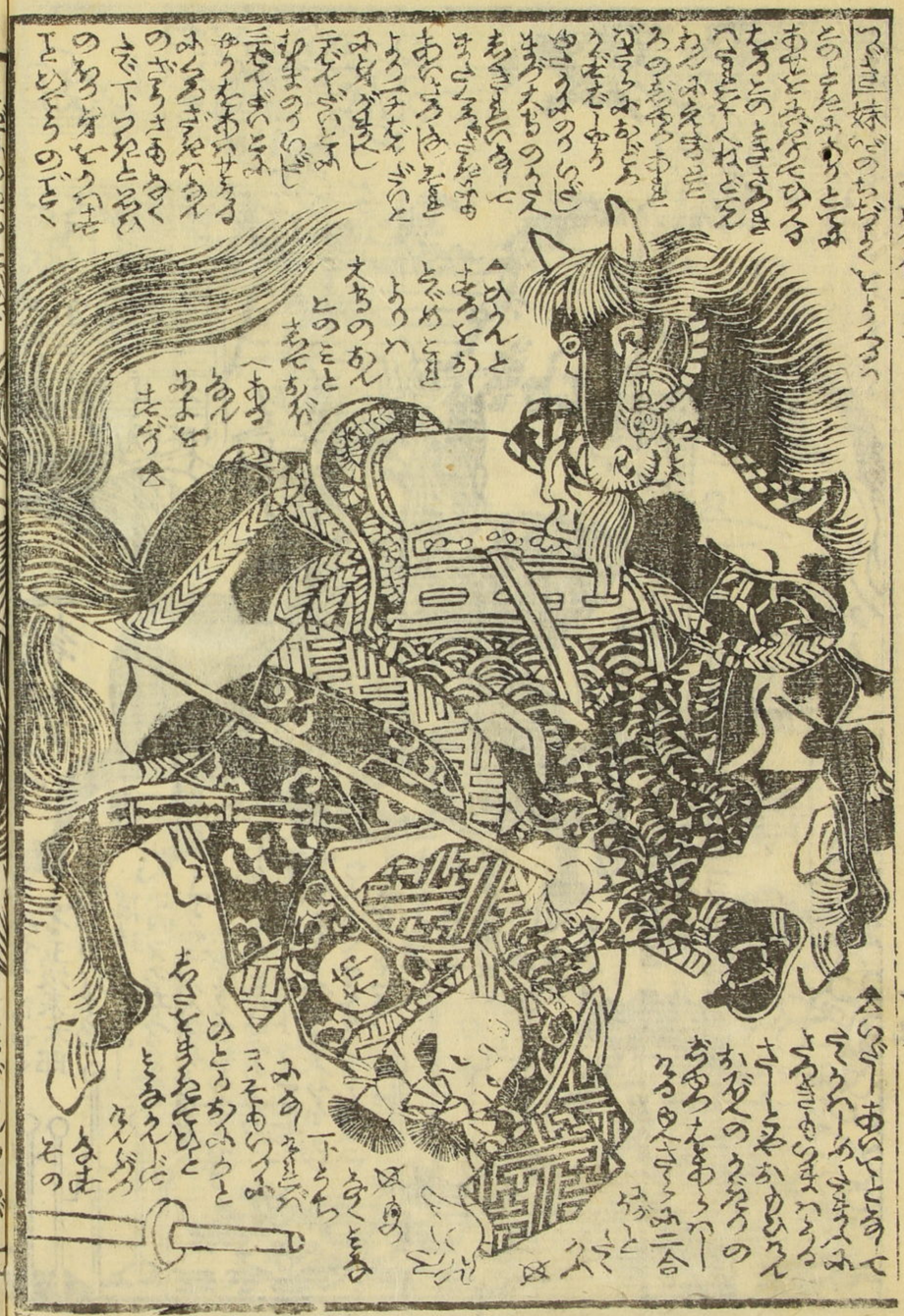

柿太郎
柿

一まい物

大

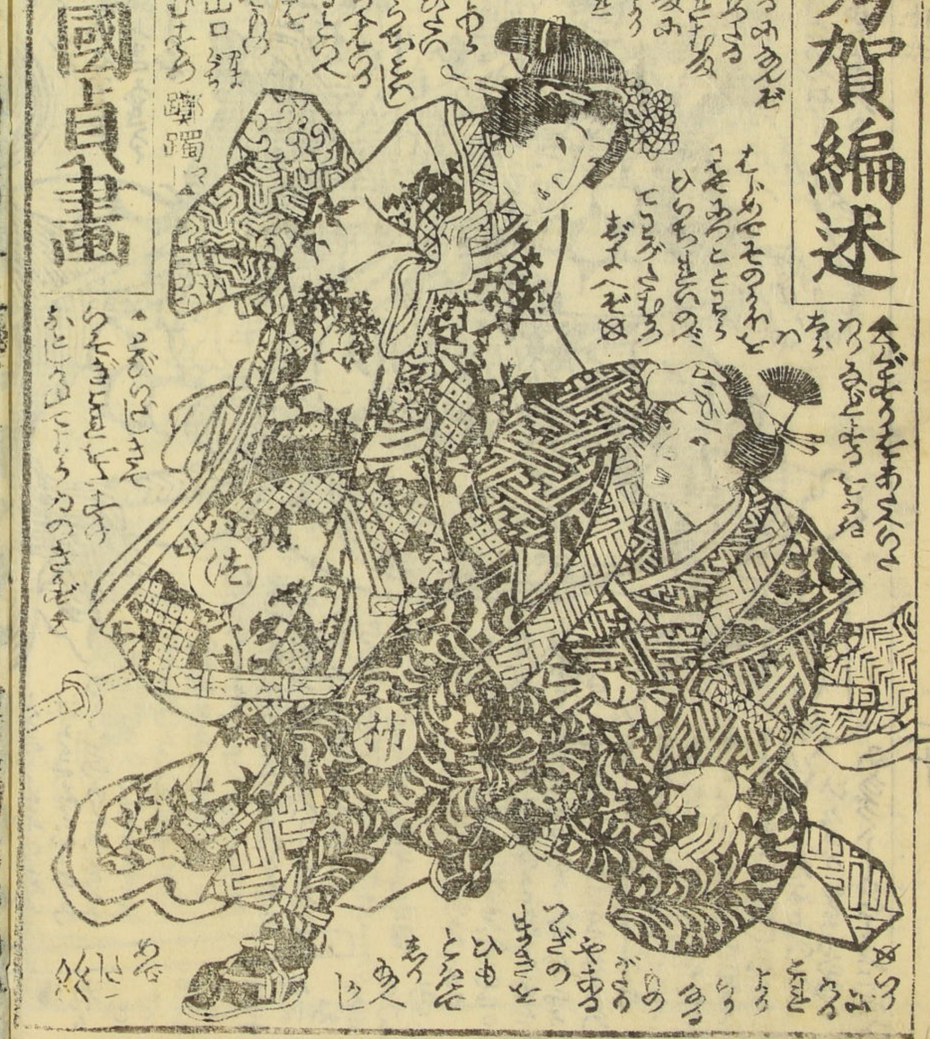
柿





鶴亭秀賀編述

楳蹊樓國貞畫



新川十六社家連

新橋 操 五

科 仙

角 九

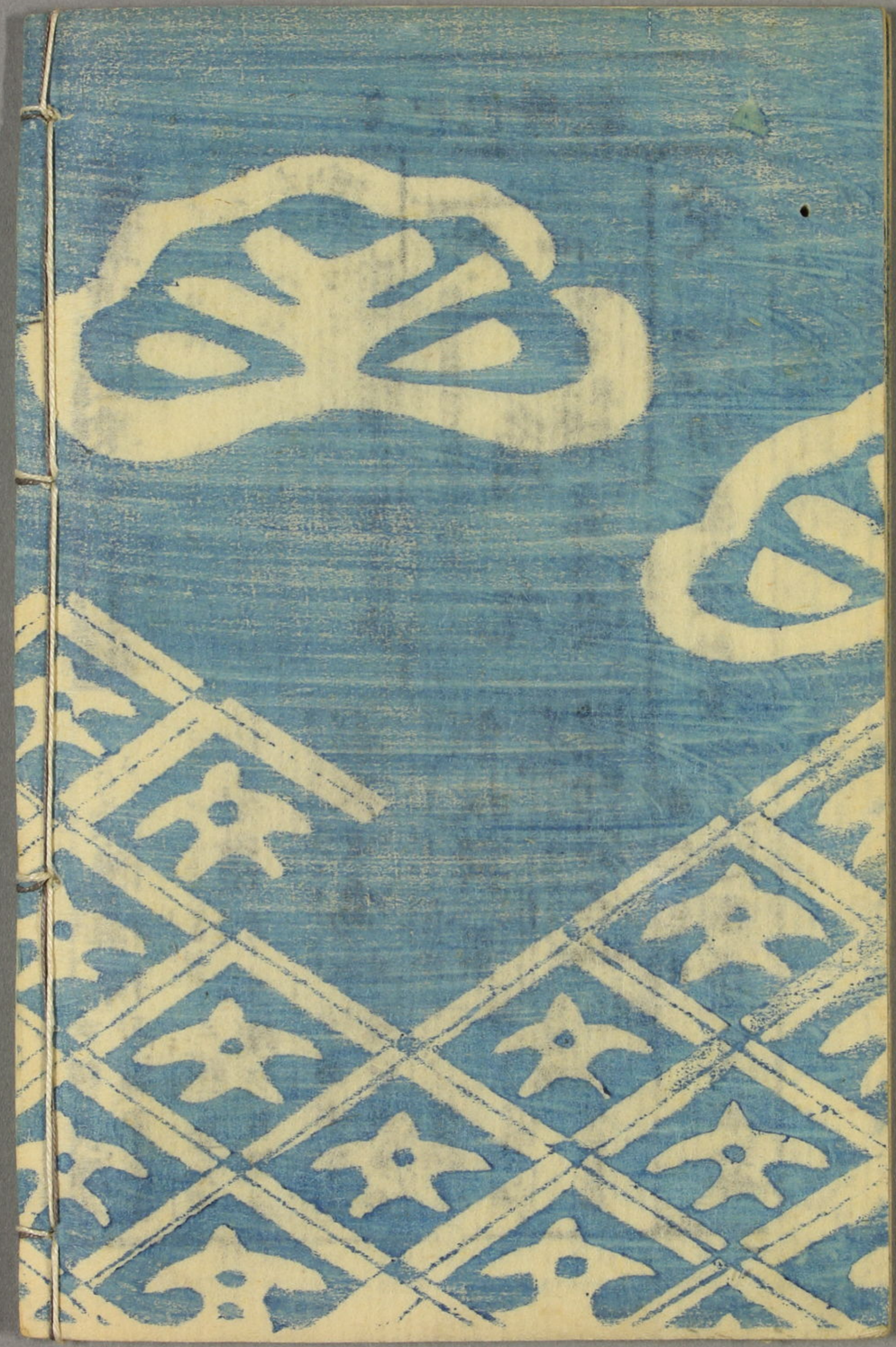
東 上 大野傳右衛

文 地本 問屋 金 松堂

假枕異人景 二

道外江戸名 二

淫女鳴神 秀

神書院引 始 三

逆岡屋文助